

横手市農業委員会農地利用最適化推進委員候補者(担当区域順)

令和8年10月28日現在

No.	担当区域	氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況	農業委員への推薦等	推薦者等	推薦・応募の理由	農業委員会の主な業務についての考え			
											①担い手への農地集積・集約化	②遊休農地の発生防止・解消	③新規参入の促進	④農地の無断転用の防止・解消
1	横手	トミオカ ショウゴ 富岡 祥吾	農業	73	男	横手市農地利用最適化推進委員R6.4.1～現在	果樹(りんご・なし) 5,600㎡	—	—	農業を取りまく環境は厳しいが、地域の皆様と話し合いの間をつなぎ、農業委員を助けながら様々な事に対応して行きたい。	早急的な課題であるが、特に話し合い・聞き取りが大事である。	なぜ発生したのか、詳しく聞く事が大事であると思う。	魅力ある賃金が一番の力であると思うので、少しでも価額上昇であれば出来ると思わせる様な農業にする事ではないか。	解らなかった等ではなくて、良く話し合いをし防止・解消に努めたい。
2	横手	タケハラ コウヘイ 竹原 康平	農業・団体職員	38	男	—	水稲 13,000㎡ 大豆 3,000㎡	—	【一般】 小原 重夫 本間 恒 久米 豊昭	若手後継者として地域農家の人望もあり、信頼できる人物である。	現代の高齢化から、農地集積・集約化は正しい動きだと思っています。 また、大規模法人の存在は、新規参入者にとっての當農技術習得の助けになりうると考えています。 そのためには、委員が法人への橋渡しを促進していく必要があると考えています。	まずは農地をしっかりと把握し、見回りで変化に気づくこと、土地の所有者の年齢、後継者がいるのか、話し合いによって今後どうしていくのかを把握する。そして新たな農業者につないでいくことが必要である。	まずはハードルを下げるが必要だと思います。 都会などでよく見る貸し農園などで農業を体験してもらい、農業の良さを知ってもらう。 まずは兼業から始めてもらうことも必要だと考えています。	遊休農地と同じく、農地の把握・見回りが大事。 発見した場合は速やかに農業委員会に報告する必要がある。
3	横手	ヒノ キヨカズ 日野 清和	農業	71	男	宅地建物取引主任者資格取得 (第03050077号) H15.12.3～現在 秋田県南旭川水系土地改良区総代(2期) R1.5.28～現在 横手市農地利用最適化推進委員 R3.4.1～現在	水稲 3,160 ㎡	—	—	現在、推進委員の中心的役割と位置付けられている「地域計画の策定」及びそのブラッシュアップ作業の真っ最中です。 これまで6年間の推進委員経験を活かして、今後の『地域計画の実現』に向け、微力ながら尽力したいと思っています。	小規模農家から大規模農家・法人への耕作委託は年々加速されているという実感はありますが、集積・集約化となるとまだ課題が多く残されているように思います。 地域計画の策定・実現が肝心で急務であり、そのためにも農業委員会ははじめ、各関係機関のより一層の協力、注力が不可欠です。	各農業委員・推進委員が、担当地域の注意深い見廻りをしながら、現状を把握し、発生を発見した場合、速やかに事情を聞き取り、その内容に対応した解決策を当事者に提案すべきかと思っています。	新規参入の促進に関しては、関係諸機関の支援・サポート体制も強化されていると認識しておりますが、まだまだ十分とはいえませんが、農業委員会としては、農地の幹旋・紹介等で、お役に立てればと考えております。	農地の無断転用の防止・解消に関しては、私たちの見廻りによる、注意深い監視活動しか方法はありません。
4	増田	ナイトウ カズヒロ 内藤 和洋	農業	45	男	JA秋田ふるさと青年部役員 R1.4.1～現在 横手市農地利用最適化推進委員 R6.4.1～現在	水稲 150,000㎡ 果樹(さくらんぼ) 500㎡	—	—	遊休農地の解消に努めることで、地域農業の維持に貢献していきたい。	農地集積・集約化のメリットを理解してもらえるよう、農家に説明しスムーズなマッチングができるよう行動していきたい。	遊休農地が発生する前に、農業委員や推進委員に相談をかけて頂くよう地域に密着した活動を行っていく。また、マッチングができるよう務める。	当地区では、認定農業者がいる農業法人がない。 農家も高齢化になっており、新規参入者を増やし安定した農業実施していくためにも新規就農者には指導等を積極的に行っていく。	農地の無断転用や原野化を防ぐため、強化したパトロールの実施や情報共有を図る。
5	増田	シラサワ ススム 白澤 進	会社役員	74	男	JUKI電子工業(株) 取締役・人事・総務・経理担当 H14.6.31～H21.10.16 (株)天下森振興公社 代表取締役 H24.5.31～現在	そば 564,200㎡	—	—	私が所属している、(株)天下森振興公社では、耕作放棄地になり得る可能性のある水田について、荒廃防止を目的に「そば」の作付を提案し行っています。 現在では生産から「三平そば」として販売までを担っているところです。 今後の、農地利活用等に対して、知見を活かしたいと思い応募しました。	農地集積のメリット等について、所有者に説明し理解してもらうことが、よりスムーズなマッチングにつながるのではないかと考えます。	遊休農地の解消策として、水稲以外の作付け等への転作も可能であることを所有者へ助言し、よりスムーズなマッチングにつながるよう支援していきたいです。	農事組合法人設立の支援や、設立時資金の調達等についての助言を行えます。	現在所属している(株)天下森振興公社は、市町村合併前より地元農家との情報網があります。その情報網や現在増田地域全域でそば栽培を実施していますので、柔軟かつ広域的な巡回調査が可能です。
6	増田	フナトウ タカユキ 後藤 隆之	農業	59	男	横手市増田地域局産業建設課主査 H25.4.1～H31.3.31 横手市農林部農業振興課主査 H31.4.1～R5.3.31 (令和5年3月31日付け退職)	果樹(りんご) 6,000㎡	—	—	横手市職員として農政業務に10年間従事した経験を活かし、農業委員及びJA等関連団体と連携し、農業委員会活動の普及啓発に努めて参りたい。	増田地域は、他地域と比較し法人化の出遅れが目立ちます。そのため、農地の集積や集約が進んでおりません。 今後、効率の良い農地利活用を推進するにあたり、認定農業者等を通じ農地集積を進めていきたいと考えます。	増田地域の遊休農地の多くは、後継者不足が要因となっている農地が多くあります。 早期の担い手とのマッチングを進めるために、地区農業委員と密接に連携し、新規就農者や認定農業者への情報提供を積極的に行い、遊休農地の解消に向けて取り組んでいきたいです。	増田地域は、個人の認定農業者が多く占め、農事組合法人が非常に少ないという現状があります。 個人の認定農業者等に対して、法人化・新規参入を促していきたいと考えます。	増田地域の中でも狙半内地区を代表するような山間部にある、人目に付きにくい農地については、日頃のパトロールを欠かさず行い、注視していくことが重要であると考えます。 また、農地所有者の認識不足から発生する違反転用が発生しないように、適切な情報提供を地区農業委員に行っていきたいと考えます。
7	平鹿	サトウ カズヒロ 佐藤 和仁	農業	57	男	横手市農地利用最適化推進委員R6.4.1～現在	水稲 220,000㎡ 施設野菜(ミニトマト) 660㎡	—	—	地域のために貢献したい。	農業後継者がいなくなりつつあり、今後農地がどうなるのかと思います。 少しでも地域に貢献できればと思います。	地域農業の発展に努めたい。	新規就農者の支援に取り組みたいです。	農地の維持保全に取り組んで行きたい。
8	平鹿	サトウ ヒデアキ 佐藤 秀昭	農業	56	男	雄物川筋土地改良区平鹿地区維持管理委員 R6.4.1～現在 亀田地区総代 JA秋田ふるさと稲作部会副部会長 R8.4.1～現在 JA秋田ふるさとすもも研究会会長 R7.4.1～現在	水稲 11,300㎡ 果樹(りんご・もも・すもも・洋なし) 17,000㎡	—	—	担い手不足による耕作地の荒廃が増えて来ています。 農家の経営が少しでも良くなる為の努力をしていきたいと思っています。	・担い手の確保の方法 ・農地の集積や集約化の課題	遊休農地の活用方法	新規就農者を増やす対策	—
9	平鹿	マツイ サトル 松井 寛	農業	61	男	横手市農地利用最適化推進委員 H30.4.1～現在 JA秋田ふるさと葉とらずりんご研究会委員 H9.4.1～現在 雄物川水路総代 H6.4.1～現在	水稲 160,000㎡ 果樹(りんご、なし、ぶどう) 19,000㎡	—	—	今まで通り継続したい。	農地集積への対応	推進委員として取組む	推進委員として取組む	推進委員として取組む

横手市農業委員会農地利用最適化推進委員候補者(担当区域順)

令和8年10月28日現在

No.	担当区域	氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況	農業委員への推薦等	推薦者等	推薦・応募の理由	農業委員会の主な業務についての考え			
											①担い手への農地集積・集約化	②遊休農地の発生防止・解消	③新規参入の促進	④農地の無断転用の防止・解消
10	雄物川	フジワラ ハルナ 藤原 晴菜	農業	35	女	横手市農地利用最適化推進委員 R6.4.1～現在	露地野菜(すいか) 5,000㎡ 果樹(もも、りんご) 10,000㎡	—	—	1期目は農地利用最適化推進委員として活動してきましたが、初めて経験することも多く、手探りの中で活動することが多くありました。 分らないことも多く、地域の農地や農業に十分に貢献できたという実感を持ってないまま、今期を終えようとしています。 2期目は、1期目の経験を活かし、より地域の方々と密接に関わりながら、農地や農業に関する相談役として、これまで以上に活動の幅を広げていきたいと考え応募しました。 また、私自身も新規就農から4年目となり、就農当初に感じた不安や分からないことを経験してきました。これから新規就農する方や、就農して間もない方に対して、自分の経験を活かし、少し先を見据えた立場からアドバイスやサポートができと考えています。 これまでの経験を地域の農業のために活かしていきたいと思っています。	高齢化や離農者の増加により、担い手一人当たりの負担が増えています。また、農地の集積・集約化が進んでいない土地や中山間地域では、引き受け手も少なく、農地の維持が難しくなっています。 農地の集積・集約化を進めることはもちろんですが、まずは現在農地を担っている方々を大切に、今後も担い続けてもらえる環境を整えることが重要だと考えています。 そのためにも、こまめな聞き取りを行い、どのような不便や困りごとを抱えているのかを把握し、適切な支援や補助制度につなげていきたいです。 現場の声に耳を傾けながら、担い手の負担軽減と将来的な担い手の確保につなげていきたいと考えています。	遊休農地にしてはいけないという意識が、まだ十分に浸透していないように感じています。 地域計画の意向聞き取り調査を行う中でも、「先のことは分からない」「自分がいなくなるとやる人がいなくなるかもしれない」など、将来のことを決めきれないという声を多く聞きました。 農地を守っていくためには、本人だけでなく、子や配偶者など家族と交えて今後について話し合う機会を設けることが必要だと感じています。将来の農地について考えるきっかけとなる講習会なども開催し、まずは「農地を守る」という意識を地域に少しずつ広げていく活動に取り組みたいと考えています。	私自身が新規参入から4年目となり、就農時に感じた不安や悩みを経験してきたため、その経験を活かし、新規参入を希望する方をサポートしていきたいと考えています。 今期も、新規参入者から販売先について相談を受けたり、必要に応じて相談窓口を案内したりするなど、相談に応じてきました。 新規参入を考える方々の不安や悩みに寄り添い、農業委員としてできることだけでなく、必要に応じて適切な窓口や支援機関につなげることも重要だと考えています。 今後も気軽に相談できる存在として、新規参入者の定着を支えていきたいです。	農地を転用する際に許可が必要であることや、農地は原則として農地以外の用途には使用できないことを知らない方も多いのではないかと感じています。 実際に、数十年前に農地へ工場を建てた方が、後になって転用の手続きをするケースに立ち会った経験もあります。 無断転用を防ぐためには、問題が起きてから対応するのではなく、農地を別の用途に使用したいと思った段階で気軽に相談できる環境をつくることが重要だと考えています。 申請方法や相談先が分からない方も多いと思うので、分かりやすく案内することも必要です。また、新規就農者を対象とした研修などでも農地に関する制度を学ぶ機会を設け、早い段階から正しい知識を身につけてもらうことも有効だと考えています。
11	大森	ヒラモト サエコ 平元 沙恵子	農業	36	女	横手市農地利用最適化推進委員R3.4.1～現在	露地野菜(小玉スイカ) 3,000㎡	—	—	農業をやっている一番身近な地域の問題である農地に関する問題を自分ごととしてとらえるため。 地域の状況や個人の希望、その他の様々な条件を考慮しながら、よりよい形でマッチングしていけるようにサポートしていくことが、農地集積・集約化に結び付くだろう。	現在は、農業委員・農地利用最適化推進委員で取り組んでいる地域計画において、現在の担い手や将来的な担い手が浮かび上がりがつづある。 地域の状況や個人の希望、その他の様々な条件を考慮しながら、よりよい形でマッチングしていけるようにサポートしていくことが、農地集積・集約化に結び付くだろう。	まずは守るべき農地を重点的に守るため、農業委員・農地利用最適化推進委員で取り組んでいる地域計画ブラッシュアップを着実に実行することが、遊休農地の発生防止になると思う。 農地集約に伴い作業が効率化されることで、将来的に遊休農地の解消にもつながると考えている。	地域の農産物の良さと地域を取り巻く環境について積極的にPRすることで、農業に対して潜在的に興味を持っている『未来の担い手』にアピールすることが大切だと思う。 同時に、参入促進ばかりでなく参入後の円滑な経営をサポートし、将来にわたって続けていけるような体制をとれると良い。特に、参入後の資金繰りや制度など、生産に直接かかわらない知識が不足しているために不安を抱える新規参入者が多いと感じており、大切にフォローしていくことが必要だと考える。	無断転用であるという自覚がなく転用しているパターンが多いと思われるため、相談されたり話題に上がったときに正確な情報を提供できるよう、委員ひとりひとりが制度についての知識を深めておくことが大切だ。 また、どういったパターンが転用に当たるのかをまとめて、担い手へ何度も発信していくことが、未然の防止につながると思う。
12	大森	ササキ タクアキ 佐々木 健明	農業	45	男	JA秋田ふるさと大森支部青年部副部会長 R6.4.1～現在 JA秋田ふるさと養豚部会部会長 R8.4.1～現在 横手市農地利用最適化推進委員 R3.4.1～現在	水稻 130,000㎡ 露地野菜(アスパラ) 3,000㎡ 養豚(年間出荷 2,700頭)	—	—	地域の農業者や関係機関との連携を大切に、地域の実情に合った農地利用の最適化に貢献したいと思い応募します。	農業者の高齢化や後継者不足で、農地の貸し借りを円滑に進め、分散している農地を集約することで作業効率の向上や生産コスト低減につなげたい。	担い手への農地集積・集約化を推進するとともに、遊休農地の発生防止に取り組むたい。	関係機関と共に新規就農者の確保と育成を支援することで、地域の農地を守り持続可能な農業の実現に努めたい。	農地法に基づく適正な利用が図られるよう、農業者への啓発に努めたい。
13	大森	イトウ ヒデユキ 伊藤 英幸	農業	66	男	秋田県農業共済組合監事 R6.6.1～現在 横手市農地利用最適化推進委員 R3.4.1～現在	水稻 140,000㎡	—	—	農地利用最適化推進委員を2期務めさせていただきました。 近隣における農地は、現状問題無く耕作はされていますが、農業従事者の高齢化は顕著であり、いつ耕作放棄地になってもおかしくありません。 それらの解消のため少しでも力になればと思い、次期も応募させていただきました。	これからは、農地集積・集約は必ずやらなければならない事ではあるが、それ以上に担い手となるべき人材の発掘と育成が急務であると思う。	大森地域においては、山間地の遊休農地・耕作放棄地の解消は厳しいと思う。(ほぼ限界集落となっている。) 大森・川西地区の平地であっても遊休農地が見られるところがあるので、いち早い対応で近隣耕作者へ打診するべきと考える。	安定した収入の確保と年金対策が、はっきりと数字で示されれば参入はあると思う。 あと移住者や外国人労働者の定義をしっかりと確率するのと誰にでも明確にしてほしい。	見て見ぬふりをせず、気が付いたら利用者にすぐに声をかけ、確認する事が必要と思う。 転用の手続きが面倒と思っている人もいるようなので、簡素化についても検討してはどうか。
14	大森	オオスマ カオル 大沼 薫	農業	51	男	中房地区農地保全組合揚水担当理事 R7.4.1～現在 大森地区環境保全集団推進員 R8.4.1～現在	水稻 167,000㎡	—	—	普段農業活動している中で地域の方々にお世話になっていることから、地域農業のために少しでも貢献していきたいことから応募いたします。	担い手の経営や生産効率を上げるためには、様々な条件がある中で貸し手と借り手だけの問題ではなく、担い手間での調整や協力も必要だと思いますので、地域計画の状況の理解を深めた上で、どのような対応ができるか考えていきたいと思っています。 また、担い手に農地が集積するということは農業者が減ることであり、今後の地域の環境保全活動(草刈り、水路維持管理など)の人員確保についても考えていく必要があると考えます。	遊休農地になるということは、場所、面積、環境など様々な面で条件が不利な状況なため借り手が見つからないということが一因としてあると認識しています。 最近では私の管理している圃場付近でも猪や熊等の目撃も増えており、ますます条件が悪くなる圃場が増えていこうと感じています。 解消するためには農地集積・集約化と併せて基盤整備を行い、少ない人数でも効率的に生産が行えるようにすることではないかと考えます。 また、他の地域の事例など情報収集に努め、有効な対策を考えていきたいと思っています。	地元周辺地域の農業高校生等に対しては、インターンシップなどの取り組みを行うことで地元人材の確保、育成をしていくこと等必要と考えます。 また、地元地域外についても、情報ツール等を活用することで全国に向けて横手の農業の魅力を発信して、少しでも就農を検討している人々が横手に興味を持ってもらうことや、横手を選んでもらえるような取り組みを行うことが必要だと考えます。	まずは自分が農地についての理解を深めて、様々な状況に応じた対応ができるように努めたいと思う。

横手市農業委員会農地利用最適化推進委員候補者(担当区域順)

令和8年10月28日現在

No.	担当区域	氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況	農業委員への推薦等	推薦者等	推薦・応募の理由	農業委員会の主な業務についての考え			
											①担い手への農地集積・集約化	②遊休農地の発生防止・解消	③新規参入の促進	④農地の無断転用の防止・解消
15	山内	タカハシ サトル 高橋 暁	農業	52	男	横手市農地利用最適化推進委員 R4.7.1～現在	水稻 20,000㎡ 露地野菜(だいこん) 5,000㎡	—	—	山内地域の実情に合った農地の選定利用や遊休農地の解消に貢献したい。	整備されている農地はいいと思うが、中山間地域での農業はよほど条件が揃わなければ、農地の集積・集約ができて、担い手がいたとしてもつなげていけないと思う。 まずはすぐには増えない担い手を考えた省力化、水稻であれば水路の維持管理、天候の変化による災害、獣害などを考慮し、その土地の特性にあった作物など選定する必要があると思う。 その地域の実情を把握しながらの活動をしなければならないと思う。	耕作者が作れなくなった農地は、継いでいく人がいなかったこととは別に理由があったから続けられなくなった。条件が良ければ誰かが続けられたはず。 家から遠い圃場は便利が悪い。機械化が進む中、機械が入れない圃場につながる道路がない、狭い。水が溜まりやすい圃場、日当たりが悪いで、作りたい作物が作れない等、そういう農地はどうしても優先度が下がる。 今、担い手が極端にいない地域で遊休農地の発生防止・解消はなかなか難しいと思う。	新規参入希望者や興味ある人向けには、その地域の実情、特性を理解してもらえるような話しをしないと、本当にそこに根付いて農業をやってくれないと思う。 そこで農業を始めたが、思っていたのとは違うとなれば続けてもらえない。 いいことばかりではなく、ある程度本音の部分は伝えた方が、新規参入者のためにもなると思う。	これからも周知徹底と現地把握を継続していくしかない。
16	山内	ナガサワ コウキ 永沢 公規	農業	37	男	—	水稻 35,000㎡ 露地野菜(里芋) 1,000㎡ 花き(トルコギキョウ) 800㎡	—	—	農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加が進む中、次世代の農業者が将来に希望を持って営農を続けられる地域づくりが重要だと考えています。 現役の農業者として現場の声を反映し、農地の保全と有効活用、地域農業の発展に貢献したいと考え応募いたしました。	農業従事者の高齢化や後継者不足が進む中、地域農業を維持していくためには、担い手への農地集積・集約化を進めることが重要であると考えています。 農地の集約化によって作業効率の向上や生産コストの削減が期待できる一方で、農地の立地条件や担い手の経営規模、労働力などによっては、農地の引き受けが難しい場合もあると考えます。 そのため、農地の出し手と受け手の双方の意向を十分に把握し、地域の実情に応じた調整を行うことが重要です。 また、農地の集積を進めるだけでなく、集積後も担い手が無理なく営農を継続できる環境を整えることが重要だと考えています。	遊休農地の増加は、地域農業における大きな課題であると考えています。 遊休農地の発生を防ぐためには、農業者の営農状況や今後の経営意向を早期に把握し、耕作が困難になる前に新たな担い手への農地の引き継ぎを進めることが重要です。 一方で、中山間地域や耕作条件の悪い農地については、担い手の確保が難しい場合もあるため、地域の実情に応じた柔軟な対応が必要だと考えます。	地域農業を将来にわたって維持・発展させていくためには、新たな農業者の確保と育成が重要であると考えています。 新規就農にあたっては、農地の確保に加え、農業技術の習得や設備投資、経営の安定化など、さまざまな課題があるため、就農希望者が安心して農業を始められる環境づくりが必要です。 また、新規就農者が地域に定着するためには、既存の農業者との交流や情報共有、地域との信頼関係の構築も重要であると考えます。	農地は地域農業を支える大切なものであり、適切に守っていく必要があると考えています。 無断転用を防ぐためには、日頃から農地の利用状況を把握し、問題の早期発見に努めることが重要だと考えます。 また、農地の無断転用には、制度を十分に理解していないことが背景にある場合も考えられるため、違反が起きてから対応するだけでなく、事前に相談しやすい環境を整える必要もあると考えます。
17	大雄	トダ ヤスシ 戸田 靖	農業	67	男	横手市農地利用最適化推進委員 R6.4.1～現在	水稻 61,500㎡ ホップ 4,500㎡	—	—	不作付地を無くしたい思いで、これまでの1期を務めてきましたが、逆に不勉強を思い知らされた1期目でした。 2期目を務められるのであれば、1期目で経験・勉強した事柄を活かし、地域の農地の適正利用・担い手支援・新規就農者支援に力を入れたいと思います。	農地の集約化を進めるには、水路ごとに集積を進め、各々管理する事で効率の良い形での集約化が実現できると思う。 農地中間管理機構のPRを積極的に行い、水利組合の総会等での事について啓蒙する。	・農地中間管理機構のPR ・水稻栽培に向かない農地については、大豆・小麦・そば等の栽培農家(法人)への紹介 ・農地パトロールの定期開催	よこて農業創生大学校等、助成金のある研修制度のPRと農地バンクとの連携を強化する。	・土地の相続登記の厳格化と併せて、無断転用の事例を紹介したチラシを配布する。 ・農地パトロールの定期的な実施
18	大雄	コマツ タカヨシ 小松 高義	農業	71	男	平鹿農業共済組合理事 H26.6.1～R3.5.31 阿賀土地改良区監事 H20.4.1～H30.6.30 横手市農業委員 H18.4.1～H30.3.31 横手市農地利用最適化推進委員 H30.4.1～現在	水稻、大豆 285,000㎡ 施設野菜(トマト) 500㎡	—	—	農家の負担なしで施工できる農地中間管理機構関連農地整備事業の導入	・将来の農地利用の在り方として、農地一筆ごとに10年後の農地の受け手を位置付ける。 ・地域の話し合いへの参加の呼びかけ。	・日常的な農地の見守りを実施する。 ・声掛けを起点として農家の意向を把握する。	・新規就農参入者に農地の賃借料を10年間無償にする。 ・月に2回は訪問し相談や話し合いをする。	日常的なパトロールの実施